

第 2 回黒磯地区検討会議 議事要旨

■日時 平成 29 年 3 月 24 日（金）

■場所 岩国市役所 5 F 51、52 会議室

■協議事項

- (1) 業務対象地区の現状及び米軍基地に関連する交流事業について
- (2) 福祉及びその他公共施設等を取り巻く状況
- (3) 課題の整理
- (4) 導入機能の方針

■主な意見要旨

－福祉及びその他公共施設等を取り巻く状況－

（委員）

- ・資料 4 ページ④「福祉の交流拠点」への交通手段は、約 8 割が自家用車のニーズとなっており、計画地への導入路をどのようにするか綿密に検討する必要がある。また、鉄道のニーズが約 2 割となっており、J R 藤生駅からのアクセス方法についても検討する必要がある。

【事務局】

- ・交通アクセスは課題だと認識している。また、立地条件も鑑み公共交通機関についても十分に検討していきたい。

（委員）

- ・資料 6 ページの「公共施設マネジメントの整理」に関連して、耐震性に問題のある灘出張所・供用会館・住民ホールの複合施設の更新については、地元から市に要望している。現在地は、海の近くに位置しており、計画地に新たな防災拠点として移転をしてほしい。

【事務局】

- ・灘出張所や供用開館については、以前よりご要望いただいていることは、承知している。今後、計画地がどのような導入機能になるかを含めて検討していきたい。地元からの要望として承りたい。

－課題の整理－

（委員）

- ・資料 7 ページにおいて、課題として整理されている「相談機能」は地域にあるべきであり、大きな施設に集約するものではない。

（委員）

- ・「相談機能」が足りないというアンケート結果は、地域に既存の相談機能があることを上手くアピールできていないことが課題ではないか。

（委員）

- ・岩国市では困りごと相談先の一覧表を作成しているが、周知不足ではないのか。市報でも紹介しているが、出張所や社会福祉協議会などで周知すれば相談窓口の問題は解決出来るのではないか。

【事務局】

- ・アンケート結果をみると、子育てから高齢者、障害者を含めて相談機能の要望が多い。相談者が抱える問題は様々であり、総合的な相談窓口を求める声と受け止めている。今後においては、庁内ワーキンググループや、事業者ヒアリング等により、更なる検証を行っていきたい。

(委員)

- ・資料7ページでの「求められる対応」における「福祉に関わる人材育成」に向けては、既存の養成施設もノウハウを持っているので、こういった役割分担ができるか検討していく必要がある。

(委員)

- ・高校生になって福祉に携わるのでは遅く、小さい頃から福祉に携わることで福祉に関心を持ってもらえれば、次世代の福祉の担い手になってもらえるのではないかと考える。

(委員)

- ・ある小学校では、児童が認知症のグループホームに社会見学に行き、高齢者と話をする中で感じた事、認知症に対する考え等を、学校で発表している。大規模には難しいが、学級単位であれば福祉教育に取り組むことは可能である。

【事務局】

- ・専門的な福祉や医療の人材の養成も当然のことだが、認知症サポーターなどの講座を開くなど、少子高齢化の中で、お互い支えあっていくような拠点、体制づくりも重要と考えている。
地域の一人ひとりが取組む福祉の力を育てていくことも必要な教育かと思う。人材という大げさな事ではないかもしれないが、地域の方の少しの心遣いで、支援を必要とする方の手助けになる部分もあると考える。

(委員)

- ・岩国市にどういう機能が不足しており、どういった機能が必要だという根拠を整理する必要がある。

【事務局】

- ・施設の老朽化という視点、地域に根ざした機能の視点、福祉事業者に対するニーズ調査等、ご意見を頂きながら、福祉をキーワードとした導入機能を整理していきたい。

(委員)

- ・資料8ページの「交通条件における課題」について、国道188号の渋滞は深刻であり改善が必要である。
- ・そこに新しい交通が加わる施設は考えづらい。拠点づくりと南バイパスの延伸は合わせて検討すべき。

【事務局】

- ・南バイパスの整備に向けた協議等を進められているが、ルートや整備時期は未定。

(委員)

- ・資料8ページの「その他の課題」について、黒磯地域の方が求めている「医療施設」に特化して検討するべきではないか。岩国市の人口は、今後さらに減少し、利用者も減少する。そう考えると、拠点整備が必要なのか疑問に思う。

【事務局】

- ・アンケートでも、そのままで良いという意見もある。また、市町村合併により複数存在する機能もある。しかしながら、市内には老朽化している施設もあり、市として施設整備は考えていかないといけない部分は現実としてある。

(委員)

- ・資料８ページの上位・関連計画に関連して、「岩国市都市計画マスタープラン」では「周辺地域の住環境や自然環境等に配慮した適切な土地利用の誘導を図る」とあるが、海は近いが水に親しむ体験ができるわけでない。自然をどう活かすのか検討する必要がある。

【事務局】

- ・アンケート結果を踏まえて考えると、建物等の人工物でばかりではなく、緑など自然を感じるような整備を求められていると思う。また、敷地から自然を感じるだけでなく、外から、海から、あるいは山から敷地を見ることがある。外から見た景観にも配慮しながら整備していくことも大切と思われる。

(委員)

- ・道の駅のような、商業施設はあり得ないのか。福祉の交流拠点としての魅力に欠けるのではないかと。商業施設などがあれば働く場所にもなる。

【事務局】

- ・アンケートの中でも「働ける場があれば」という意見もあるが、例えば公園を整備すれば維持管理も出てくる。また、レストランやカフェがあれば働く場所もできる。何を整備するかではなく、運用で対応できる部分もある。施設整備の検討を進めるにあたっては、福祉部局や福祉事業者へのヒアリングを実施し、運用方法等についても意見を伺いながら進めていきたい。
- ・都市計画では、黒磯地区に身近な商業施設は建設可能だが、大規模商業施設は今の都市計画では難しい。道の駅は、国道から少し奥に位置しており運営上難しいのではないかと考える。

－導入機能の方針－

(委員)

- ・数年前の土砂災害の際に、災害ボランティアセンターが設置されたが、駐車場等の運用上の問題があった。災害時におけるボランティアスペースが必要ではないか。

【事務局】

- ・地域コミュニティ分野になると思うが、ボランティアの活動支援や育成支援等に関する機能の導入についても検討していきたい。

(委員)

- ・導入機能の方針イメージは理解できるが、全てをカバーすることは難しいのではないかと。例えば人材育成は課題であるが、既存施設でカバーできるか整理する必要もあるかと思う。

【事務局】

- ・施設の利用状況も鑑みながら、黒磯に必要なかどうか所管部局にも確認し、全体バランスを見ながら決定していきたい。